

四種の立場



柳 幹康

今回は白隠が示す四種の立場——(一)外道・
(二)声聞・(三)縁覚・(四)菩薩——について見て参り
ます。

第一の外道は非仏教者を指します。輪廻からの解脱を求めない者、このままで良いとして仏道修行を行なわれない者がこれに当たります。白隠は言います、「輪廻の中で良い生まれを望み、悪い生まれを厭い、他人に勝ちたいという思いを抱いて努力する者、これが外道の実践である」(『寒山詩闡提記聞』巻一)、「参禅など無益だ、公案(禅の課題)など何になる。心が仏だと言うのだから、妄念が有ろうと無かろうとどうでもよい。(山賤の白木の合子そのままに漆付けねば剥げ色こそ無し」という道歌があるように)木樵や獵師が使う粗末な白木の器は、本来のままがよい。漆を塗らなければ剥げるこ

ともない」と言い、目の見えぬ亀ががらりと開けた谷に迷い込んだように（一向に出口が見つからず）徒いたずらに日々を過すごし満足している。これはインドの自然外道じねんげどうの見解である（『遠羅天おらてん釜がま』巻下）。

第二の声聞は仏教の小乗しょうじょう（劣った立場）の徒です。白隠は言います、「声聞とはいかなる連中か。苦しみの原因である欲望を滅ぼすことで悟ろうとする者である。それは恰あたかも長い竿さおで雲煙を払うようなもので、いくら払ったところで（払いのけることはできず、最後はただ）老いて死んで終りである。永遠の生まれ変わりのなかで苦勞するが、ついで真理を見る力を得ることができない。これを空しく人生を送る人と言う。今時の黙照もくしょうの輩ががこれだ」（『宝鑑貽照ほうかんいしょう』）。黙照とは悟りを得ることなく只ただぼんやりと坐る

悪しき坐禅のことで、臨濟・曹洞・黄檗の別を問わずそれに安住する者が多いと白隠は批判しています（『壁生草いっまつくさ』巻上）。

第三の縁覚も仏教の小乗（劣った立場）の徒です。白隠は言います、「縁覚は一度見性けんじょう（仏である己おのが本性の看取）はするものの、（全ては実在しないという）真理に偏執するため（それ以上）進むことができない。今時の断滅空見だんめつくうけんの輩ががこれだ」（『宝鑑貽照』）。断滅空見とは一切を撥無はつむする極端な立場です。その弊害について白隠は以下のように唄っています。「もはや悟った大隙おほひまあいた、おらは是これから心の儘ままじゃ、殺生偷盜せつしょうちゆうとう（殺し盗み）も氣遣きづかいないぞ、五逆十悪ごぎやくじゅうあく（五種の大罪と十種の悪行）好よいなくさみよ、因果いんがむくいも無いからと、邪見断無じけんだんむ（一切を撥無する邪見）の我儘わがまま悟り、よその見る目も恐ろ

しや、……本との凡夫がいつそ増し」(『お婆々どの粉引き歌』)。

第四の菩薩は仏教の大乗(優れた立場)の徒です。白隠は言います、「完璧な菩薩は(小乗とは)異なる。無数の辛苦を食らいつくして究極の真理に至り、しかもそこに安住しない。(更に歩を進めて)様々な経論から無量の大法財(偉大な法の宝)を収集し、(教えを学び、人々に説き、煩惱を断ち、悟りを完成させるといふ)四種の誓いに勤しみ、苦しむ一切の衆生を救済し、永遠に怠ることがない。たとえ虚空が尽きようとも、その誓いが尽きることはない。弛まず大法施(偉大な法の施し)を行なうのだ」(『宝鑑貽照』)。

以上の四種の立場は次のように整理できます。

(一)何ら修行を行なわないのであれば外道、(二)修

行を行なうが見性(開悟)を得ないのであれば声聞、(三)見性を得て満足してしまふのであれば縁覚、(四)見性を得た後に法施(法の施し)という衆生救済の道に邁進するのであれば菩薩。つまり正しい実践は法施に極まるというのが白隠の立場なのです。

最終回となる次回は、この法施により法が広まる様を示した語「無尽灯」についてご紹介いたします。

柳 幹康(やなぎ みきやす)

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士(文学)。東京大学東洋文化研究所准教授・花園大学国際禅学研究所客員研究員(副所長)。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究——一心による中国仏教の再編』(法蔵館)。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

*ハ切りは毎月1日です。

『花園』へのご意見・ご感想など

本誌へのご意見・ご感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。 ※住所が変更になりました。

送り先

〒616-8034 京都市右京区花園木辻北町1
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園 係

*住所、氏名を必ずお書きください。

*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

*なお投稿はお返しいたしません。

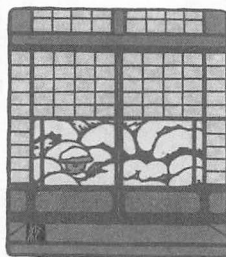
花園
hanazono

「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

- 【花園】第72巻 第2号(通巻第846号)
令和4年2月1日発行(毎月1日発行)
定価55円
- 【発行人】野口善敬
【編集人】石田信行
【印刷人】喜田眞司
- 【発行所】京都市右京区花園木辻北町1
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替／01060-9-1400
電話／075-463-3121

表紙の絵

「雪の庭」



雪見障子から垣間見る銀世界。

絵・正親 里紗(おおぎりさ)

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,560円(税・送料込)です。
下記のお電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。